道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 23 年度　第３号　　2012 年 1 月 30 日

北海道立総合研究機構　栽培水産試験場　調査研究部
TEL：0143-22-2327　FAX：0143-22-7605

道南太平洋スケトウダラ資源調査（計量魚探調査）結果

函館水試調査船「金星丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- 調査期間：平成 24 年 1 月 13～18 日
- 調査海域：道南太平洋の水深 50～500ｍの海域

・魚群反応は胆振沖（登別から白老沖）及び日高沖（新冠沖）が中心。
・魚群反応の比較的強い水深は 250m前後であったが、胆振沖では 100m付近にも魚群反応がみられた。
・魚群反応量は一昨年（平成 22 年）を下回り、平成 17～21 年の平均程度。
・漁獲物の体長（尾叉長）は、35～40㎝ が主体であった。

１．スケトウダラとみられる魚群は、胆振から日高海域にかけて主に分布していました。その中でも、胆振海域の 182、184、185 海区および日高海域の 168 海区に強い反応がみられました。（図１）。

２．魚群反応は、胆振・日高海域では水深 100m～500ｍの広い範囲で観察され、とくに 200～250ｍ付近では海底に張り付いた比較的強い反応が観察されました。渡島海域では水深 250～400ｍではややまとまった反応がみられましたが、それ以外ではあまり魚群反応はみられませんでした（図２，４）。

３．調査海域の平均反応量は、一部のラインでしか調査ができなかった昨年を除くと、卓越年級群であった平成 17 年度生まれのスケトウダラが加入した一昨年（平成 22 年）を下回りましたが、それ以前の 5 年間（平成 17～21 年）と比べると、ほぼ同程度（平成 17～21 年の平均値程度）の反応量となっていました（図３）。

４．トロール調査についてですが、魚群反応の強かった胆振沖（登別沖）の水深 200～250m の海域では、漁具が多かったためトロール調査はできませんでした。その沖合の水深 300m付近と渡島海域（南茅部沖）の 250m及び 300m付近でトロールを行った所、尾叉長 35～40cm を主体としたスケトウダラが採集されました（図５）。成熟状態を調べた所、雄は放精後、雌も産卵後または完熟卵（水子）を持った個体が多くなっていました。

今年度のスケトウダラニュースは本号で終了となります。

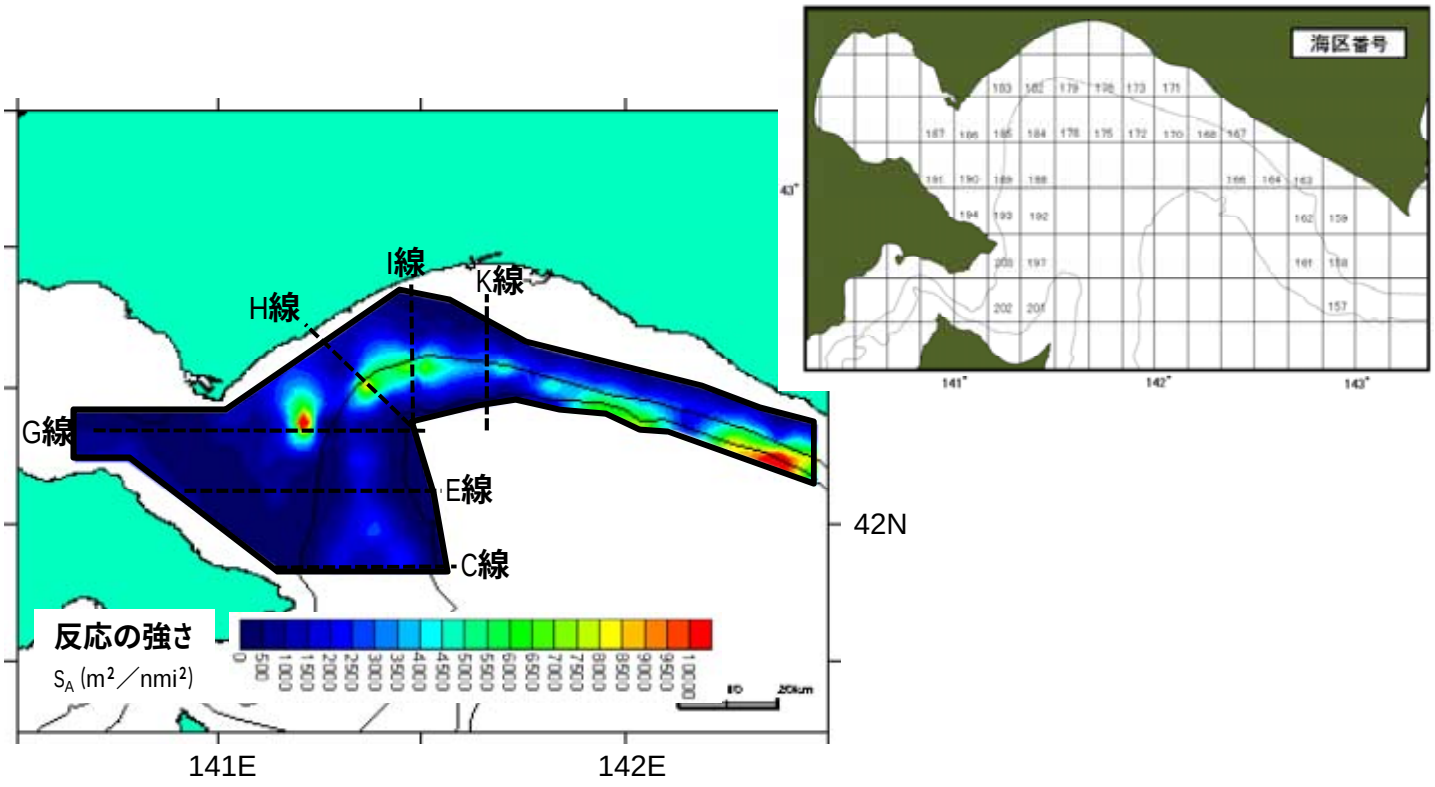


図1　調査海域における魚群の分布

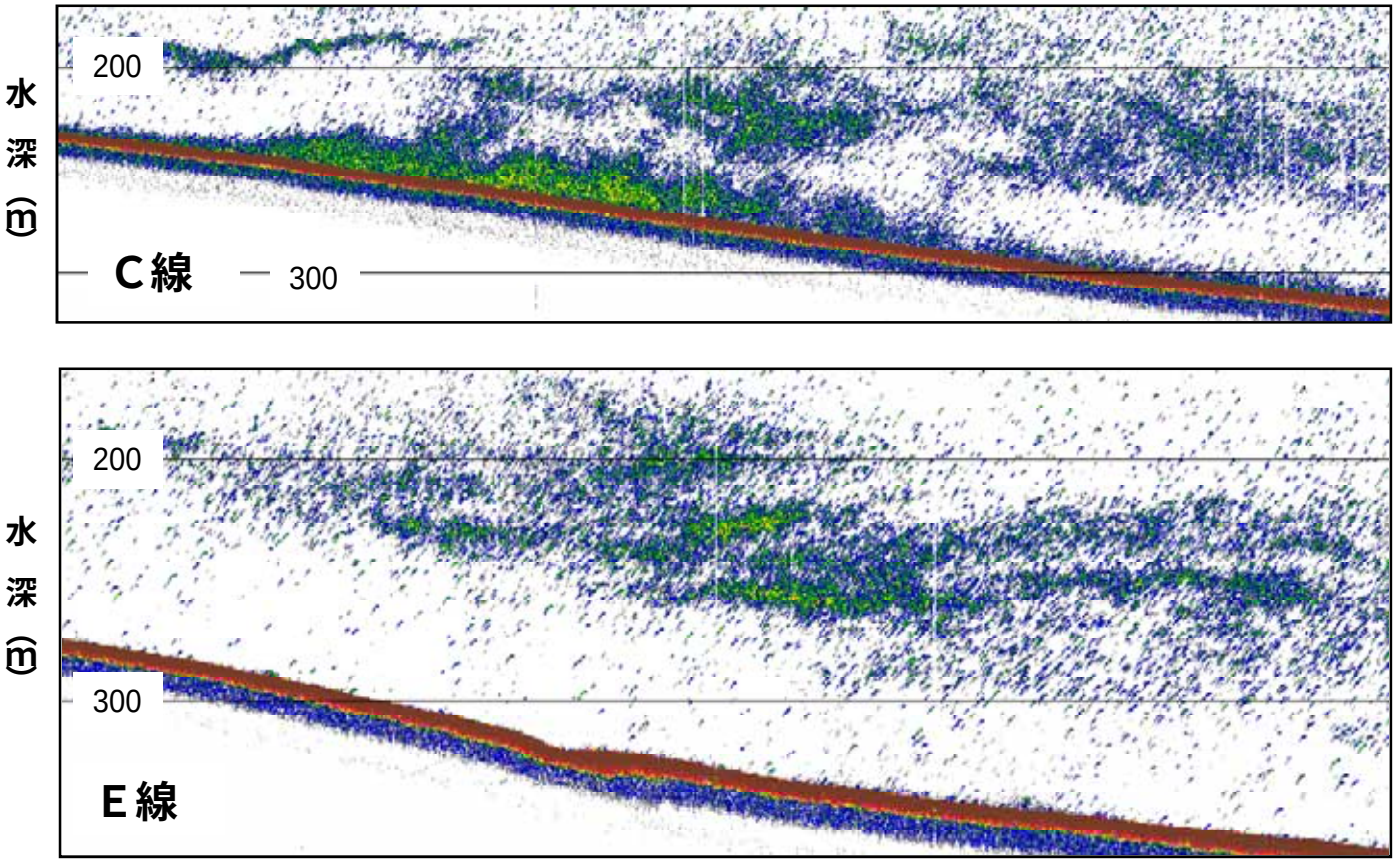
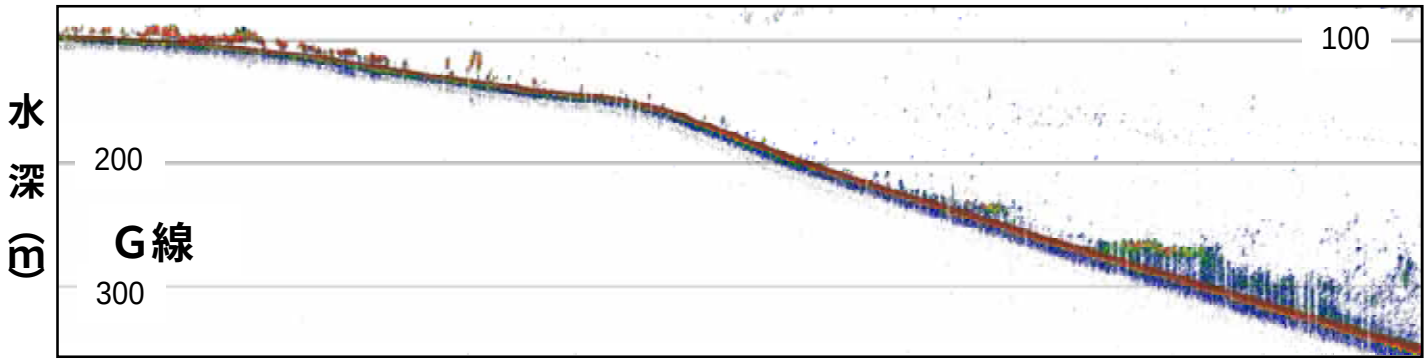
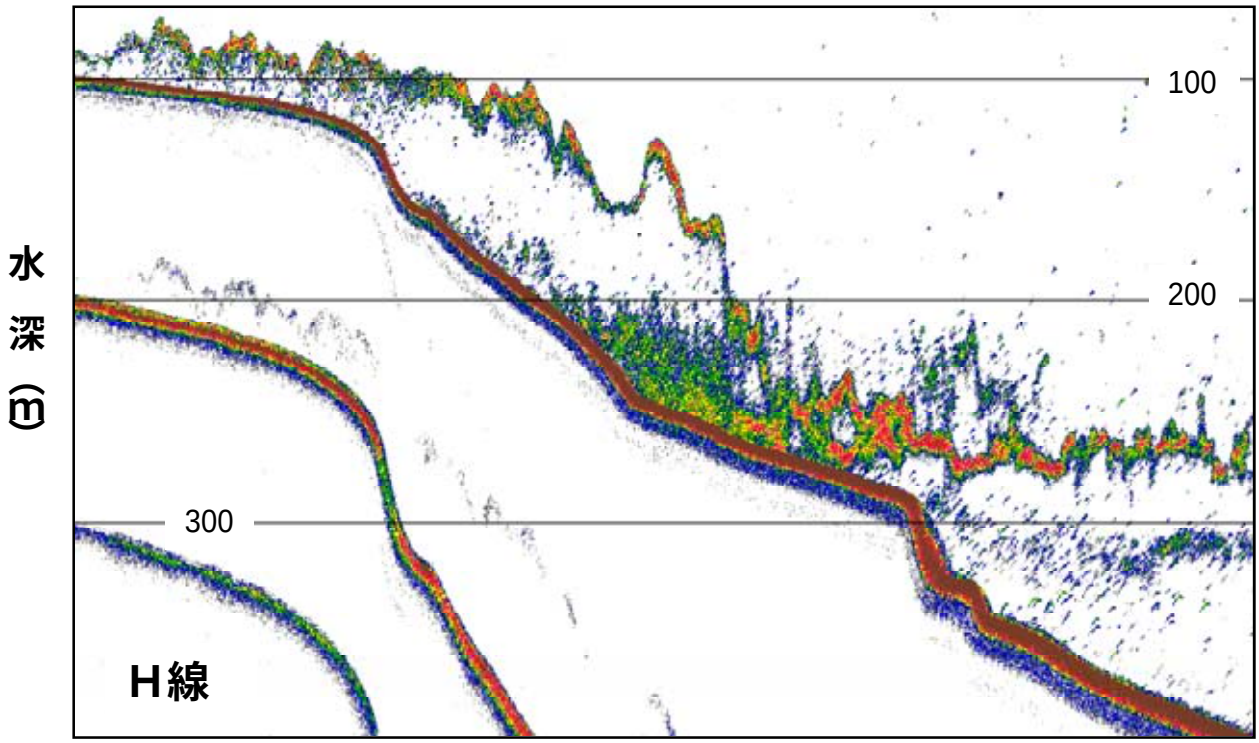


図2　魚群の分布状況（計量魚探画像）





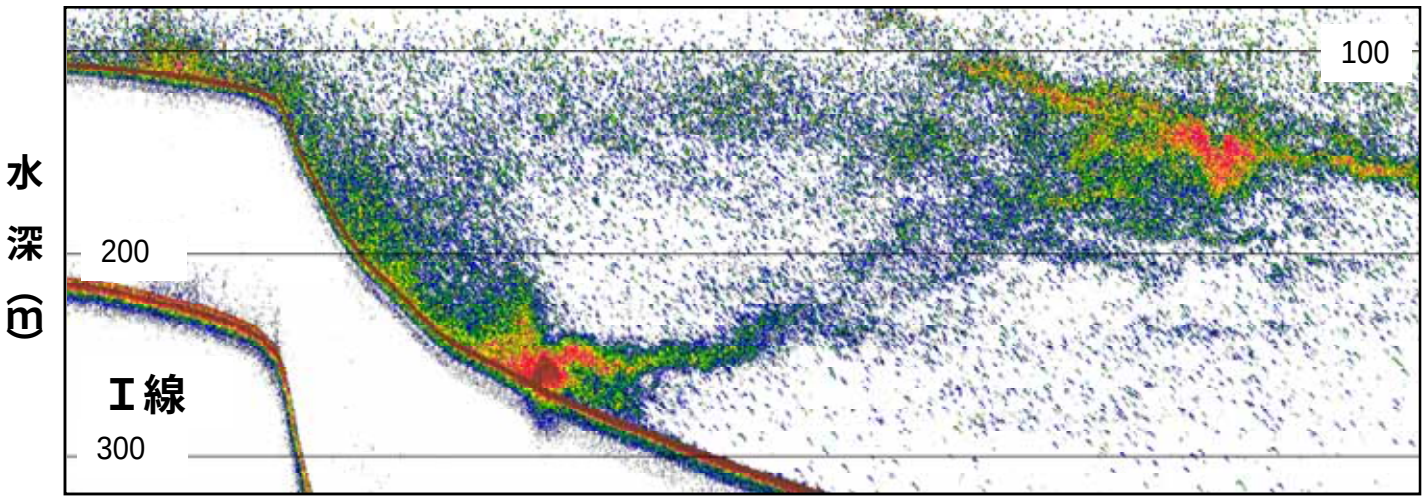


図2　魚群の分布状況（計量魚探画像）つづき

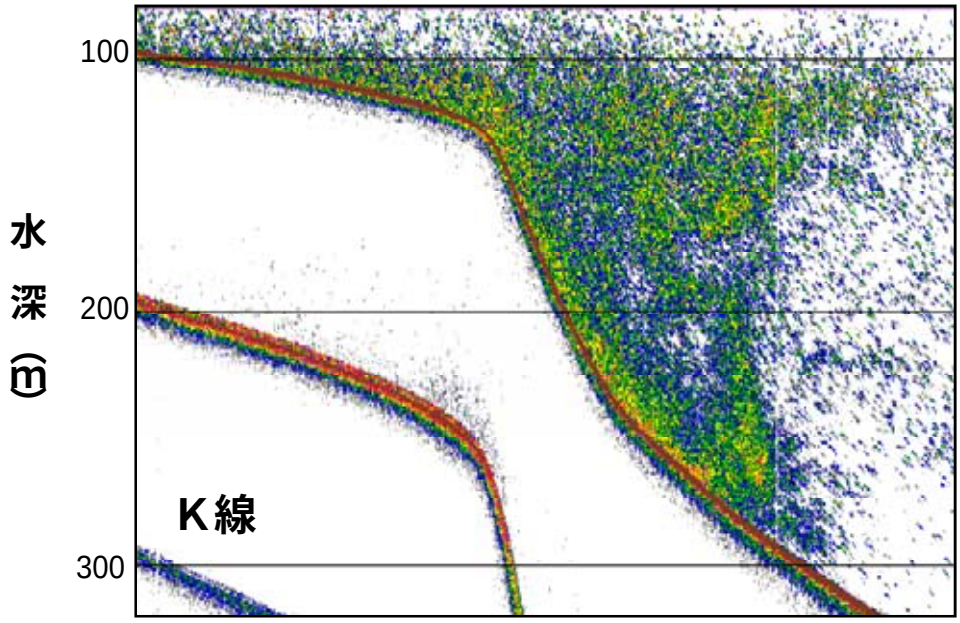


図2　魚群の分布状況（計量魚探画像）つづき

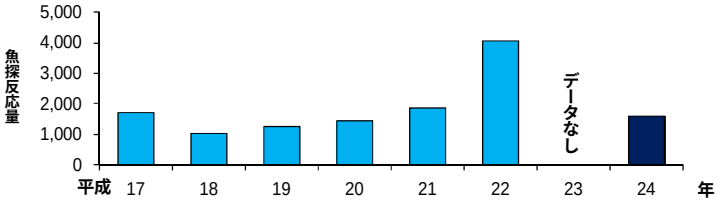


図3　海域平均の魚探反応量（S_A）の推移

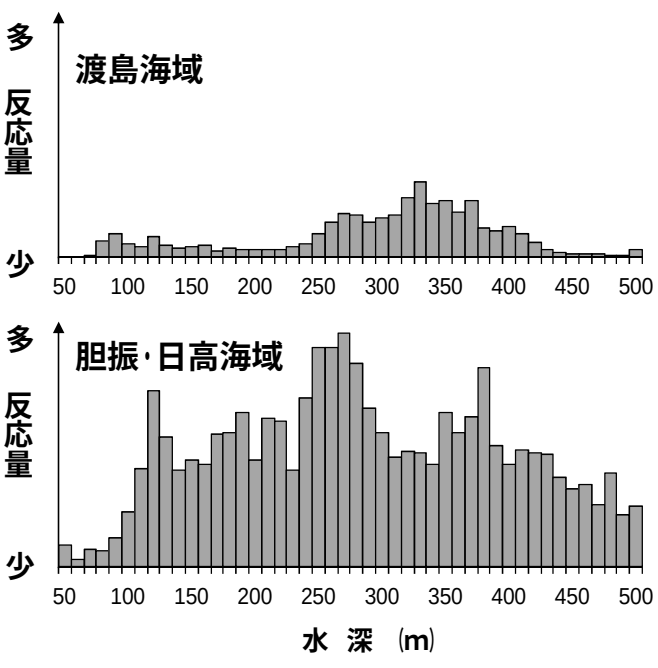
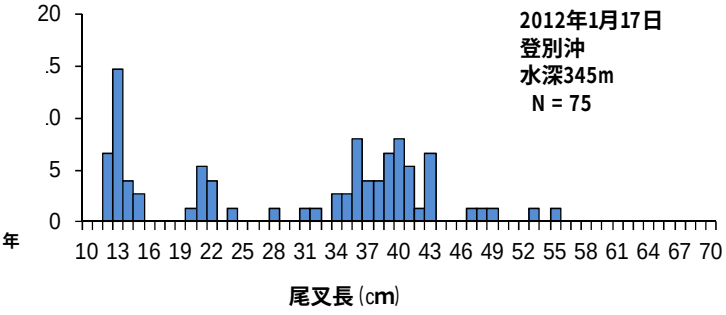
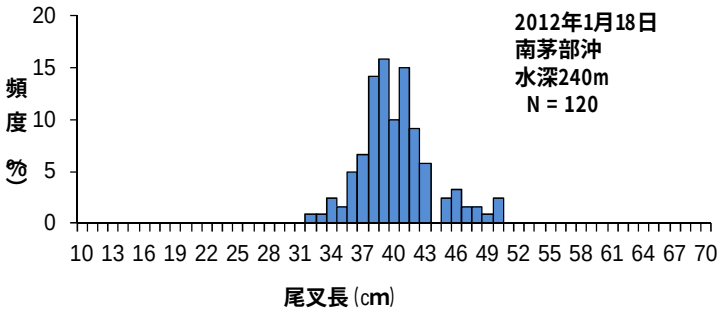


図4　水深別の魚探反応量





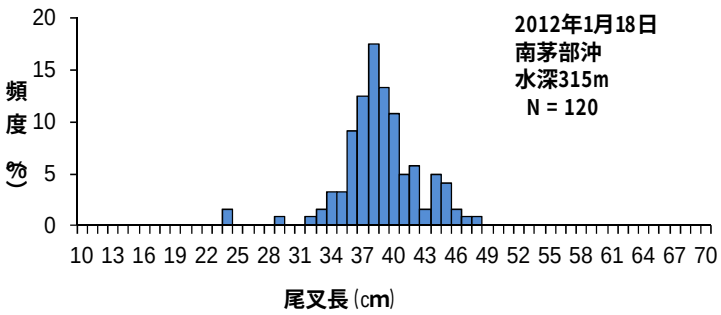


図5　漁獲物の体長組成